

# 令和4年度 厚生労働省母子保健指導者養成研修

研修5

子どものかころの問題に関する研修

概要資料

# プログラム概要

	研修プログラム	講師	プログラムの内容
①	<u>行政説明</u> 母子保健行政の動向	厚生労働省 子ども家庭局 母子保健課	最近の母子保健行政の動向
②	<u>講義</u> 健やか親子 2 1 における子どもの心の健康対策	山梨大学大学院 山縣 然太郎 氏	子どもの心と親子の関係性について
③	<u>講義</u> 子どもの心の診療ネットワーク事業の取組み	国立成育医療研究センター 副院長 こころの診療部統括部長 小枝 達也 氏	様々な子どもの心の問題、被虐待児の心のケアや発達障害、災害時の子どもの心の支援体制について
④	<u>事例紹介</u> 育てにくさを抱えた親子を支える三鷹市の取組み ～家庭の子育て力向上を旨として～	東京都三鷹市健康福祉部 健康推進課 小島 美保 氏	三鷹市が挑戦する「親としての育ち」・「親子の愛着関係」を支える仕組みづくりについて紹介

## ② 健やか親子21における子どもの心の健康対策

### 【研修講師】

山梨大学大学院 山縣 然太郎 氏

### 研修のポイント

#### 【愛着について】

- 愛着とは、相手を大事に思う気持ちに支えられた絆で、愛着が形成されないと心理的、行動的問題を抱える。
- 認知の発達、社会的経験の蓄積などにより、愛着行動は、年齢に相応したものに変わる。就学前期の子どもは、交渉や取引きを行うことができる。子ども時代の中期までに、愛着行動システムの目的は、対象者への親密さから有益性へと変化する。
- 虐待により、子どもは愛着で形成された安全な場所（親のそば）を失う。虐待による反応性愛着障害としては、激怒反応（恐怖と不安が根底にある）、欲求不満に自制が利かず反抗的・反社会的などが挙げられる。

#### 【社会性の発達：報酬系】

- 他者からの良い評判・評価（褒め）という社会的報酬の処理には、その他の基本的報酬と同じ脳部位が関与する。
- 人の複雑な社会的行動に関する心理モデル構築に制約条件を与える。

#### 図表：話を聴くときに心がけたいこと

- ・プライバシーの保たれた、静かで安心できる場所を用意する
- ・率直に、心配していることを伝える
- ・誘導しないで、オープンに尋ねる  
最近なんとなく元気がないように見えるよ
- ・評価や解決の前に、こどもの体験を共有する  
どんな気持ちなの？
- ・子どもの力と一緒に気づく  
もう少し教えて  
それってどんな感じなの？
- ・そうするとき、どうしてる？  
それってどんな風に役立ってる？

#### 【思春期の心の問題：ネット依存】

- 厚労科研で、2012年（大井田班）と2017年（尾崎班）に全国調査をしたところ、2017年調査で、中高生の93万人が病的なネット依存である。
- ネット依存症に関する研究のなかには、睡眠障害や脳神経障害のほか、気分調整ができなかったり、何でも話せる友人がいなかったり、規範意識の欠如や攻撃衝動があるなど、心理・社会的問題を抱えていることも明らかになった。

#### 【コロナ禍の子どもの生活、心身の健康】

出所：国立成育医療研究センター×こども本部2022年3月

- 国立成育医療研究センターの調査によれば、テレビ・スマホ・ゲームなどの時間が去年よりも増えたという回答は約7割。低学年の子どもの心の様子としては、「コロナのことを考えるとイヤだ」（34%）が最も多い。子どもの見えづらい内面に寄り添うことが大切。
- 子どもが大人に相談するという事は非常にハードルが高い。子どものSOSに気づいたら、素直に心配していることを伝えたり、誘導しないでオープンに尋ねる等の配慮が必要である。
- COVID-19対策には、インフルエンザの流行回避や遠隔医療の推進などの副効果がある一方で、同様の対抗リスク（自殺の増加、経済格差の増大等）の可能性が想定されることも理解しておくことが求められている。

### ③ 子どもの心の診療ネットワーク事業の取組み

#### 【研修講師】

国立成育医療研究センター 副院長 こころの診療部統括部長 小枝 達也 氏

#### 研修のポイント

##### 【子どもの心の診療ネットワーク事業】

- 子どもの心の診療医の養成に関する検討会、子どもの心の診療拠点病院事業（モデル事業）を経て、平成23年に一般事業化
- 虐待への対応、発達障害への対応、災害後の心の問題への対応※が三本柱  
※東日本大震災を受け、平成24年4月に追加
- ホームページ（<https://kokoro.ncchd.go.jp>）で参加自治体の診療に関する指標や、医療機関マップ、好事例などの情報を提供
- 一般市民、子どもに向けても、子どもの心のQAや医療機関の情報を提供

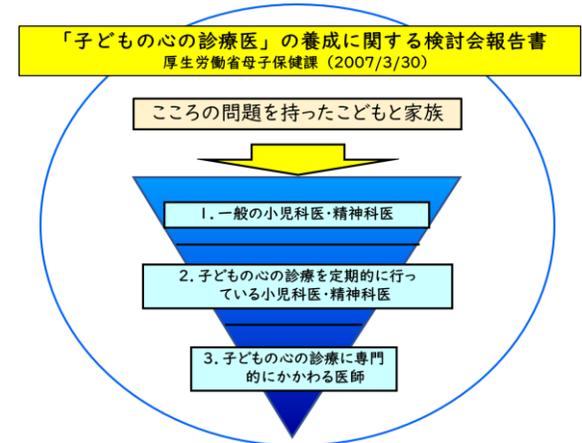
##### 【中央拠点病院の役割】

- 各拠点病院に対する技術的助言、連携会議の開催
- 自治体間格差の解消と医療水準の底上げの推進（指標調査、医療マップの作成等）
- 強度の問題行動事例やPTSDへの対応などのための各拠点病院等への専門家の派遣災害時に医師や心理師を派遣、子どものトラウマや診療に関する普及啓発資料や対応マニュアルを配布
- 専門医や関係専門職の養成  
ワークショップの開催、代替医師派遣により医師不在地域の医師の学習機会を確保
- 基盤的研究の実施、各拠点病院における調査結果の高度な研究・解析
- 国内外の最新の医学的知見の収集、情報発信

##### 【子どもの心の診療ネットワーク事業の拡充】

- こども家庭庁の所管になり、学校との連携強化をはかる予定
- コロナ禍への対応、子どもの心の問題について学校保健と連携

図表：子どもの心の診療を行う医師の三段階（養成の考え方）



図表：情報提供冊子（例）



# ④ 育てにくさを抱えた親子を支える三鷹市の取り組み ～家庭の子育て力向上を目指して～

## 【研修講師】

東京都三鷹市健康福祉部健康推進課 小島 美保 氏

## 研修のポイント

### 【子ども発達支援センターとの共催事業の経緯】

- 子ども発達支援センターの設置に関わる庁内検討会議（平成27年度）において、総合保健センターと子ども発達支援センターとの連携強化が求められ、連携のありかた検討、および、取り組み検討が開始された。
- 連携のありかた検討を通じ、保健師は乳幼児健診で子どもの発達の課題を見つけて専門機関に送ることが「連携」だと考えており、「発達の支援」という視点では、専門機関に送った後の母子について十分にフォローできていないという気づきがあった。
- こうした課題の整理を踏まえ、「子ども発達支援センターとの共催事業」を実施することとなった。

### 【子ども発達支援センターとの共催事業の概要】

- 専門機関に「つなぐ」ことではなく、「親が積極的に子どもに関わっていけるように支援する」ことを目的とする。
- 1歳6か月健診で、全員に「子育て支援プログラム」を案内。育てにくさのある親には家庭訪問をして動機付け。
- 「子育て講座」と「子育て支援プログラム」で構成。令和2年度からは保育士と保健師が運営。

- 子育て講座（はじめの講座、フォローアップ、まとめの講座）
  - ・この時期に育てなければいけない子供の育ちや、親子のかかわりについて学ぶ。
  - ・こいぬプログラム終了後のフォローアップ講座で、「みたかHand Book」を配布し、冊子の活用方法を説明し、子育てに大切な5つの要素を解説。
- 子育て支援プログラム（こいぬ、こねこ）
  - ・子育て講座の内容を実践しながら学ぶ。
  - ・こいぬプログラムは1歳6か月～2歳児を対象、こねこプログラムは2歳～2歳6か月児を対象とする。
  - ・ふれあい遊び、大人の身体を使った運動遊びを中心に展開。

図表：子育て支援プログラムの全体像

子 育 て 支 援 プ ロ グ ラ ム	1歳6か月児健康診査	健診の通知と一緒に子育て支援プログラムを全員に案内
	子育て講座 保健センター主催	この時期に大切に育てたい心の発達について知り、親が子どもに積極的に向かえるように
	「こいぬ」 発達支援センターと共催	1歳6ヶ月児～2歳児対象 子育て講座を受けての実践プログラム
	子育て講座 フォローアップ講座 発達支援センター主催	講座後の実践を経験し、子どもへのかかわりを深め向かい合えるように
	「こねこ」 発達支援センターと共催	2歳～2歳6か月児対象 講座と実践を繰り返し、ステップアップしたプログラム 親が家庭の中で積極的に子どもと関わり、子育てに楽しく向かえるように
	「子育て講座」 まとめの講座 発達支援センター主催	集団生活を意識し、子どものかかわりを深め、向かい合えるように